



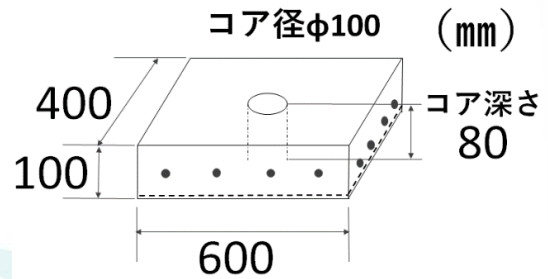
コンクリート

はく落防止の押抜き試験

はく落防止性能は NEXCO 試験法 424「はく落防止の押抜き試験方法」または、土木学会規準：JSCE-K533「コンクリート片のはく落防止に適用する表面被覆材の押抜き試験方法」に準じます。

連続繊維シート及び繊維補強コンクリート

近年、コンクリート構造物の変状によってコンクリート片がはく落して起こる第三者被害を防止することが求められています。はく落防止対策として、連続繊維シートをコンクリート表面近傍に埋め込む方法、とコンクリート製造時に適量の繊維を混入することでコンクリート自体にはく落防止性能を持たせる方法があります。また、コンクリートの表面に連続繊維シート等の表面被覆材を接着剤で張り付ける方法もあります。(土木学会規準：JSCE-K533を参照)



● D13鉄筋 --- 連続繊維シート
供試体の標準図(連続繊維シートを埋め込む場合)

試験体寸法

- ・連続繊維シートを埋め込む場合 (NEXCO 試験法 424)
厚さ 100 mm 幅 400 mm 長さ 600 mm の試験体の中央に、 $\phi 100$ mm 深さ 80 ± 3 mm となるように削孔します。
- ・繊維補強コンクリートの場合 (NEXCO 試験法 424)
厚さ 200 mm 幅 600 mm 長さ 700 mm の試験体の中央に、 $\phi 100$ mm 深さ 160 ± 3 mm となるように削孔します。
- ・表面被覆材を張り付ける場合 (土木学会規準：JSCE-K533)
JIS A 5372 付属書 E に規定する上ぶた式 U 形側溝(ふた)の 1 種呼び名 300 厚さ 60mm 幅 400mm 長さ 600mm の試験体の中央に、 $\phi 100$ mm 深さ 55 ± 3 mm となるように削孔します。

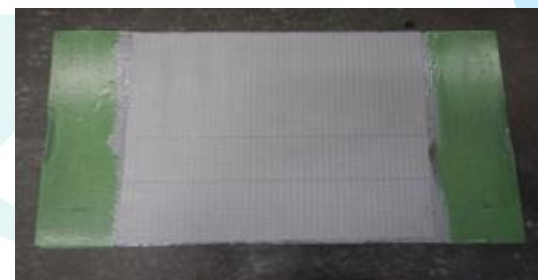
載荷装置・計測システム

載荷装置は、JIS B 7721(引張試験機・圧縮試験機-力計測系の校正方法及び検証方法)に規定されたもので、変位を制御しながら荷重を加えることができます。

計測システムには、荷重計(精度 1/100kN)と変位計(精度 1/100 mm)を用いており、荷重-変位曲線を精度良く、自動で記録することができます。



押し抜き試験用供試体の一例(繊維補強コンクリート)



連続繊維シートを張り付けた供試体(土木学会規準)



試験装置と計測システム

硬化コンクリートの耐久性評価



株式会社 中研コンサルタント

TEL. 06-6556-2380 FAX. 06-6556-2389

URL: <http://www.chuken.co.jp/>

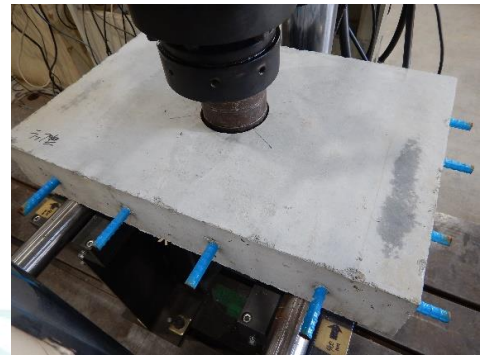
〒551-0021 大阪市大正区南恩加島 7-1-55 大正クレイドルビル



コンクリート

NEXCO 試験法 424

試験は、同一条件下で作製された供試体 3 個を 1 組とします。連続繊維シートを表面近傍に埋め込む場合はスパン 400 mm、繊維補強コンクリートを用いる場合はスパンを 600 mm となるように支点上にガタがないようにセットする。中央部に設けた削孔箇所には球座等をはさんで鉛直に荷重がかかるよう载荷します。载荷は 1 分間に 1 mm の速度で、連続繊維シートをコンクリート表面近傍に埋め込む場合はコア部のコンクリートが破壊するまで、繊維補強コンクリートを用いる場合はコンクリートの剥離面が形成されるまで载荷します。最大荷重を確認後は、1 分間に 5 mm の速度に変更して载荷を続けます。その間 10, 20, 30 mm の各変位において载荷を一時中止し、剥離範囲をマーキングするとともに、写真記録します。この間において、最終的な耐荷力が確認された場合には、その時点で試験を終了します。変位 30 mm において、さらに耐荷力を有すると判断できる場合は载荷を継続して最大 50 mm 程度の変位までの剥落防止性能を確認します。



载荷状況

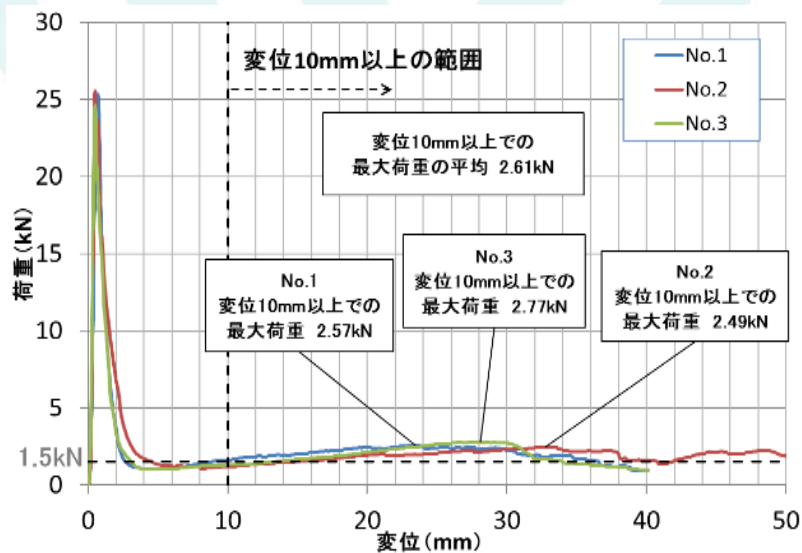


試験後の供試体(繊維補強コンクリート)

硬化コンクリートの耐久性評価

性能照査

(株)高速道路総合技術研究所が発行している構造物施工管理要領では、試験で得られる荷重-変位曲線により、変位が 10 mm 以上の範囲で最大荷重 1.5kN 以上が得られることによって、性能を満足するとみなされます。



繊維補強コンクリートの試験結果一例